

特別企画展 柿右衛門窯跡発掘調査50周年記念

柿右衛門とマイセン 旅する花文様 —陶磁の東西交流—

Kakiemon and Meissen: A Journey of Flowers
—Dialogues in Porcelain between East and West—

Special Exhibition for the 50th Anniversary of the Kakiemon Kiln Site Excavation

開催要項 (案)

開催趣旨

日本磁器の完成と評価される「柿右衛門様式」は、江戸時代の1670～1690年代に製作され、海を越えたヨーロッパ市場で高く評価されました。その優美で華麗な色彩と濁し手とよばれる独特の質感をもつ色絵磁器はヨーロッパの王侯貴族を魅了し、誕生したばかりのヨーロッパの磁器に大きな影響を与えています。とりわけ、ヨーロッパ初の硬質磁器を成功させたドイツ、ザクセン侯国のマイセンで設立された王立磁器製作所（1710年開窯：通称マイセン窯）では、1730年代を中心に精巧なコピーがつけられました。これは、ザクセン選帝侯アウグスト強王（1670～1733）が手本とさせたことに発しますが、そこには多くの要因が隠されています。

この展覧会では、柿右衛門様式とマイセン磁器の誕生を紹介するとともに、柿右衛門様式とマイセンにおける柿右衛門様式の製作に焦点をあてた展覧会とします。柿右衛門様式の優品と、マイセンにおけるコピー製品を比較対照することで、有田焼の海外輸出と東西の文化的背景も紹介していきます。柿右衛門様式の美しさがどこからくるのか、そして洋の東西を問わず、人々が魅了されるのはなぜなのかを呈示していくことをめざします。

主催 佐賀県立九州陶磁文化館
協力 柿右衛門窯、栃木県立美術館、出光美術館、静嘉堂文庫美術館、福岡県立美術館、福岡市美術館、佐賀大学芸術地域デザイン学部、有田町、有田町教育委員会、個人ほか（予定）
助成 一般財団法人 地域創造
会場 佐賀県立九州陶磁文化館 第3～5展示室 佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙 3100-1
会期 令和8年10月3日(土)～12月6日(日) 56日（予定） 月曜休館（祝日は開館しその翌日が閉館）

開館時間 午前9時～午後5時

観覧料 一般 有料（団体料金は、20名以上）
高校生以下 無料

※障害者手帳又は指定難病受給者証をお持ちの方とその介助者（1名）は無料

展示構成
第1章：柿右衛門様式の誕生と展開
第2章：王立磁器製作所（マイセン窯）の誕生
第3章：柿右衛門様式とマイセンにおける柿右衛門様式
第4章：ヨーロッパ磁器窯の柿右衛門様式
特集展示：現代の柿右衛門窯と柿右衛門製陶技術保存会
有田・マイセン姉妹都市提携のあゆみ

150件（予定）



<第1章>
有田 南川原山 1677年頃
久我コレクション
福岡県立美術館
口径 24.6×24.4



<第2章>
ベットガー磁器
ドイツ マイセン
1713～1720年頃
個人蔵



有田 南川原山
1670～1690年代
柴田夫妻コレクション
九州陶磁文化館所蔵



<第3章>
ドイツ マイセン
1730年頃
九州陶磁文化館所蔵